

平成24年度課題評価結果対応方針

農林水産部水産局・(水産総合研究センター)

1 総括に対する対応方針

区分	研究課題名	主な指摘事項等	対応方針
事前評価	板のりの製造及び貯蔵過程における高品質化技術の開発	指摘事項該当なし	
中間評価	印旛沼におけるヨシ・ガマ帯の魚類再生産に関わる機能の解明	本課題は、内水面漁場の保全・修復を図る上で極めて重要な調査研究である。肝心の魚類の産卵や稚子が観察されないなどの問題については、今後、調査方法を再検討しながら、継続して強力に推進すべきである。	調査方法については新たな手法(産卵状況については枠取り法、稚仔魚の採捕については囲い網法)を用い、頻度を高めて調査を実施し、抽水植物帯が果たすフナ、モツゴ類の再生産に関わる機能を解明していく。

2 課題評価結果対応方針

(1) 事前評価

<課題評価結果対応票>

研究課題名	板のりの製造及び貯蔵過程における高品質化技術の開発	
研究期間	平成 25～27 年度	
評価項目	指摘事項	対応方針
1. 研究の必要性や重要性	<p>①我が国全体でノリ消費が低迷する中、他県産や輸入品との競合に優位性の高い高品質のノリ生産技術を開発することは、本県にとっては規模拡大のチャンスであり、他に先んじた技術の確立と知財権の確保が急務である。</p>	<p>①重点課題に位置付けて速やかに試験研究に取り組むとともに、技術開発の目途がつき次第、特許出願の手続きを進める。</p>
2. 研究計画の妥当性	<p>②製造・貯蔵過程の条件は、呈味成分以外の品質（色、つや等）に影響を与える可能性が高く、十分な検討が必要。</p> <p>また、技術の普及を図る上において、味をいかにノリの品質として位置づけるかの検討も重要であり、評価法の開発も必要となる。</p>	<p>②新たに取り組む製造・貯蔵過程の処理が、板ノリの従来の品質評価指標である色、つやなどに及ぼす影響を明らかにするとともに、加工業者、漁業者と連携して商品性の確認試験を行い、新技術の有効性を検証していく。</p> <p>また、呈味を板ノリの品質評価指標に加えることができるよう、呈味分量の数値化など客観的な評価基準をつくる。</p> <p>さらに、加工業者、漁業者と連</p>

	<p>③3年での実用化を目指すには、あまりにも予算が少なすぎないか。資金力のあたる後発組織に先を越される危険性がある。必要経費の詳細な積算をして、外部資金の獲得等にも積極的に努めるなど必要予算を確保すべき。</p>	<p>携して試食会など味の違いを実感できる機会を設けて、県産板ノリの呈味有利性をPRしていく。</p> <p>③既存の施設や機器を活用するとともに、大学、加工業者と連携することにより、効率的に研究を進めていく。</p> <p>また、研究の進捗を見ながら広く資金導入を検討し、予算確保に努めていく。</p>
4. その他	<p>④製法について迅速に特許化をする必要がある。</p>	<p>④重点課題に位置付けて速やかに試験研究に取り組むとともに、技術開発の目途がつき次第、特許出願の手続きを進める。</p>
総合評価		

(2) 中間評価

< 課題評価結果対応票 >

研究課題名	印旛沼におけるヨシ・ガマ帯の魚類再生産に関わる機能の解明	
研究期間	平成 22～26 年度	
評価項目	指摘事項	対応方針
2. 研究計画の妥当性及び達成の可能性	<p>①コイ科魚類の産卵・保育場である抽水植物帯の環境条件を明らかにし、その保全・修復のための基礎データを集積する本計画は概ね適切である。</p> <p>ただし、これまでの調査で魚類の産卵や稚魚の確認ができていないため、聞き取りや事前調査を徹底するなどして、調査場所、調査時期、調査手法の再検討が必要であろう。</p> <p>②保育場所としての効果調査を中止することであるが、抽水植物帯の生態系機能として稚魚の保育機能は極めて重要であるため、種苗放流に頼らなくともぜひ調査の中で位置づけて欲しい。</p>	<p>①現在の調査場所（飯野地先）は、漁業者情報を元に選定したが、調査開始当時（平成 22 年）に比べ植生帯の状況が変化（ガマ帯がヨシ帯の前面に張り出し）してきているので、再度、漁業者からの情報収集を行う。</p> <p>また、稚仔魚の採捕について、有効な手法と判断された囲い網を用いて、調査回数を増やし、稚仔魚の発生・分布状況を確認する。</p> <p>②抽水植物帯の内側、際、沖側において囲い網による稚仔魚の採捕調査を継続実施し、出現時期ごとの魚介類の種及びサイズ組成を解析することによりフナ、モツゴ類稚仔魚の保育機能を明らかにしていく。</p>

	<p>③稚仔の成育にはプランクトンやベントスといった餌料環境も重要であるため、水質や物理環境の調査時に併せて調査すべきであろう。</p>	<p>③飯野地先での稚仔魚採捕調査、環境調査時に、プランクトン・ベントス採集調査を併せて実施し、餌料生物の把握を行う。</p>
4. その他	<p>④漁場環境の修復を進めるためには、河川管理局、環境部局との連携を図る必要がある。</p>	<p>④当センターは、印旛沼流域水循環健全化会議（県主催）に委員として参画していることから、研究成果に関する情報発信を行い、印旛沼再生事業と連携して漁場環境修復を図っていく。</p>
総合評価	<p>・本課題は、内水面漁場の保全・修復を図る上で極めて重要な調査研究である。肝心の魚類の産卵や稚仔が観察されないなどの問題については、今後、調査方法を再検討しながら、継続して強力に推進すべきである。</p>	<p>・調査方法については新たな手法（産卵状況については枠取り法、稚仔魚の採捕については囲い網法）を用い、頻度を高めて調査を実施し、抽水植物帯が果たすフナ、モツゴ類の再生産に関わる機能を解明していく。</p>